

(10)九州



九州地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

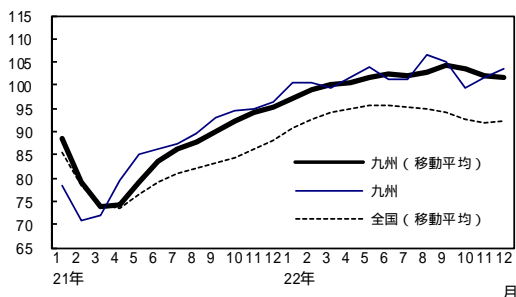
	前回(平成22年11月)	今回(平成23年2月)	
個人消費	緩やかに持ち直し	おおむね横ばい	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

電子部品・デバイス、製品単価の下落に加え、メモリなどモス型計数回路の前期からの反動により、減少した。輸送機械は、エコカー補助金制度終了の影響から大幅に減少したものの、新型車の投入効果により、持ち直した。食料品・たばこは、寒冷な気候の影響から、清涼飲料などを中心に減少した。一般機械は、堅調なアジア向け需要を背景に、水管ボイラ、半導体製造装置などを中心に増加した。化学は、アジア向け外需を背景とした家電向け断熱材の堅調な生産に加え、季節性医薬品など医薬品の増産から、増加した。

鉱工業生産指数



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

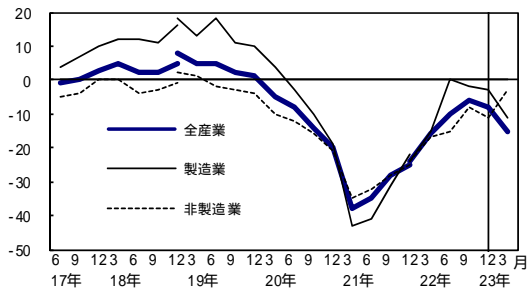
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	15.6	3.1	7.6	6.2	11.7
輸送機械	15.4	3.7	6.8	7.9	165.7
食料品・たばこ	10.6	0.3	9.6	12.7	4.7
一般機械	10.6	7.9	10.1	10.8	13.3
化学	8.2	0.5	6.4	5.3	1.1
鉱工業	100.0	1.9	2.5	3.7	0.8

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10~12月期は速報値。

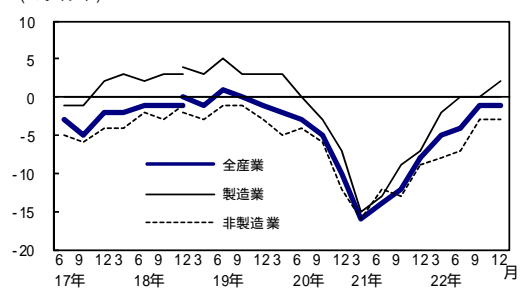
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



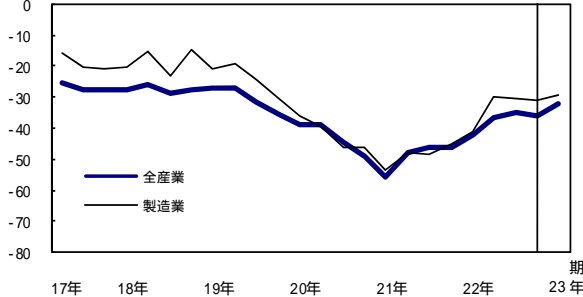
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年3月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のDI。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「受注価格が非常に安い方向に動いており、この受注価格の傾向はしばらく続く(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

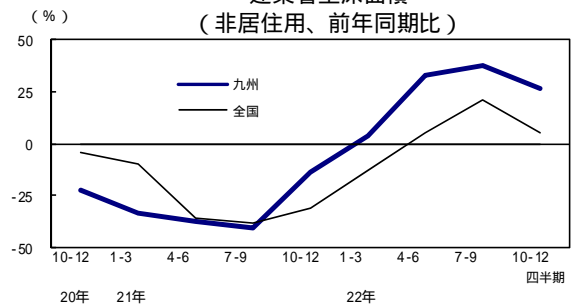
(前年度比、%)

	21年度実績	22年度計画
全産業	16.6	18.7(3.2)
製造業	38.4	25.5(0.8)
非製造業	1.6	15.5(4.5)

(備考) 1.()は前回(9月)調査比修正率。

2. 21年度実績はリース会計非対応ベース、22年度計画はリース会計対応ベース。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額

百貨店は、10月は下旬の気温の低下による衣料品の売り上げの増加に加え、低調であった前年の反動から、前年同期比の減少幅は縮小した。11月は、歳暮ギフトの早期受注等により飲食料品を中心に好調であったことから、前年同期比の減少幅は縮小した。12月は、年末にかけての急激な冷え込みによる来客数の低迷から、全般的に低調であり、前年同期比の減少幅は拡大した。なお、日本百貨店協会によると、福岡地区の1月の売上高は、前年同月比で2.8%減、福岡を除く九州・沖縄地区の1月の売上高は、前年同月比で2.6%減となっている。

スーパーは、農産品の高値による飲食料品の増加に加え、家電エコポイント対象商品の駆け込み需要の影響から家電等その他商品を中心に改善がみられ、前年同期比減少幅は縮小した。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

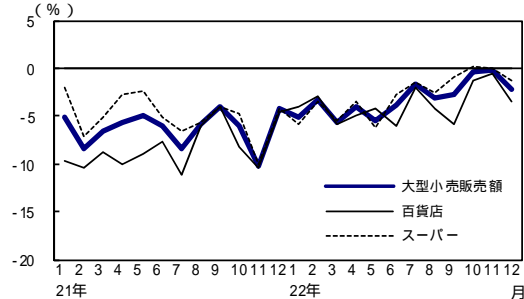
「天候が悪かったにもかかわらず、正月の初売りは福袋やクリアランス目当ての客でにぎわった。天候の悪い日が多かったが、寒さもあって冬物セールは順調だった。ただ、定価商品の売上は伸び悩んでいる(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

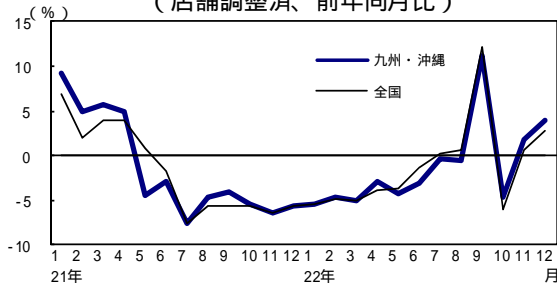
	22年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	4.8	4.5	2.5	1.0
百貨店	4.4	5.0	3.8	2.0
スーパー	5.0	4.2	1.7	0.4
乗用車	23.8	23.9	16.7	26.7
景気ウォッチャー	42.4	46.8	44.8	45.3

- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済、九州・沖縄地区。
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。

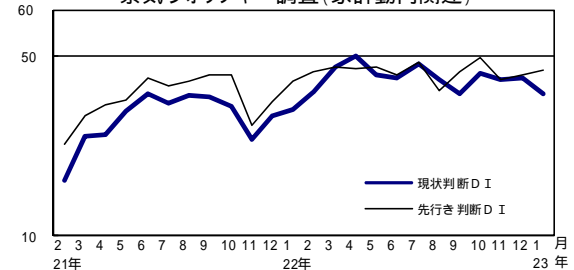
大型小売店販売額
(店舗調整済、前年同月比)



コンビニエンスストア販売額
(店舗調整済、前年同月比)



景気ウォッチャー調査(家計動向関連)

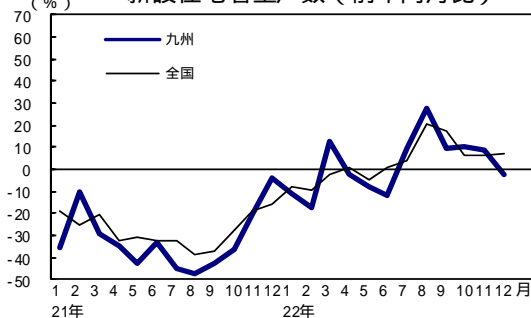


(2) 住宅建設は増加している。

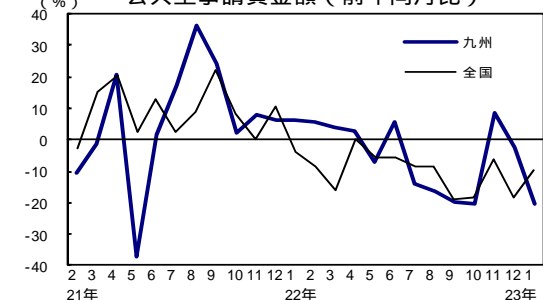
持家、分譲が前年を上回ったことから、増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

新設住宅着工戸数(前年同月比)



公共工事請負金額(前年同月比)

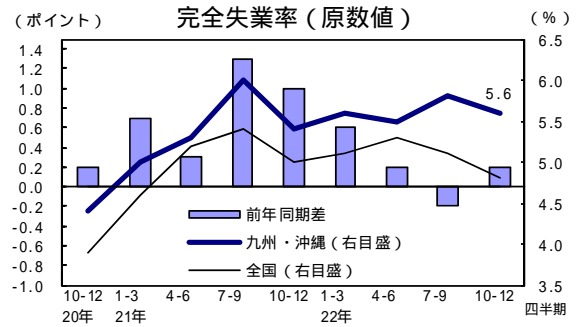
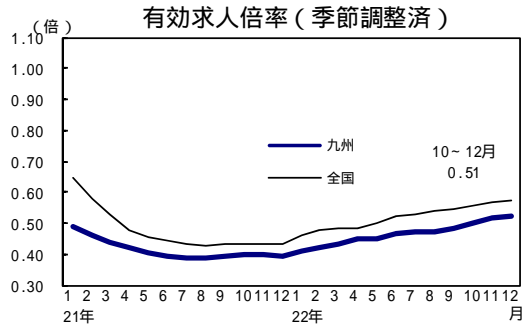


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連 (現状)]

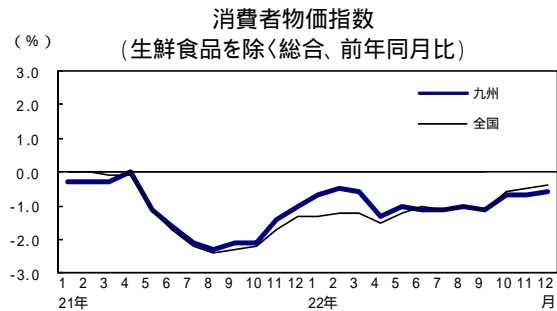
「欠員求人の募集がほとんどであり、景気浮揚による増員求人ではない(学校[専門学校])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少、負債総額はおおむね横ばいである。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	23年1月
倒産件数	215	182	222	189	61
(前年比)	19.2	35.7	8.3	24.1	17.6
負債総額	424	259	445	481	223
(前年比)	61.7	74.8	6.4	1.0	48.8



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・たばこの値上げにより、売上は前年を上回ったが、来客数自体は前年を大きく下回った。来客数を増やす販売促進を行なっているが、回復できない状況である(コンビニ)

<先行き>

・鳥インフルエンザや火山の噴火により、客が外出を控える状況にあり、当店の来客数にも大きく影響が出ている。今後の景気はやや悪くなる傾向が強い(百貨店)

